

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、良好な河川の保全・再生が創り出す健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現に向け、河川再生について共に考え次の行動へと後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動しています。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	16
➤ 会議・イベント案内.....	17
➤ 会員募集中.....	18

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

JRRN の Facebook ご案内 (アカウント URL の変更)

2012年1月にJRRNのFacebookを開設し、JRRN活動を中心に情報発信を行ってまいりましたが、ようやくフォロワーも100名に到達しました。

この度、JRRNのfacebookアカウント(URL)をシンプルに変更しましたので、ご報告させていただきます。

※JRRNのFacebook 新URL

<https://www.facebook.com/JapanRRN>

また、2014年1月からは、JRRNが目指す河川再生に関わる情報循環の更なる推進の一環として、JRRNと継続的な交流を深めている英国河川再生センター(RRC)やオーストラリア河川再生センター(ARRC)のfacebookページを参考に、国内外の河川再生に関わる報道ニュースのfacebook上での紹介も開始しました。

※参考 海外の河川再生ネットワークのfacebook

■英国河川再生センター(RRC)

<https://www.facebook.com/rrc010498>

■オーストラリア河川再生センター(ARRC)

<https://www.facebook.com/australianriverrestorationcentre>

ソーシャルメディアをはじめとする様々な情報媒体が進化する中、JRRNのFacebookを通じては、河川再生に携わる皆様にとって、新たな気付きや元気を与えてくれる様なメッセージの発信に努めてまいります。

会員皆様のご活用はもちろんのこと、川を愛する皆様にご紹介頂くとともに、河川再生の更なる情報循環の促進に向けたご意見等もお待ちしております。



<https://www.facebook.com/JapanRRN>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN/CREW 共催「初春の都心の舟めぐり(船上座談会)」参加者募集中 (3/4 & 3/15 開催)

無料ご招待

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、首都・東京の再生に向けた様々な構想が動き始める中、都心の水辺の再生も例外ではありません。

東京都では「2020年の東京」の実現に向けた親水空間の整備が、また国土交通省でもまちと水辺の一体整備に向けた「水辺とまちの未来創造プロジェクト」が始動しました。

JRRNでは、都心河川の観光舟運に携わる「江戸東京再発見コンソーシアム」の協力を得て、都心を舟でめぐりながら「東京の川の未来」について語り合う船上座談会を企画し、3月4日(火)及び3月15日(土)の二日間で開催致します。

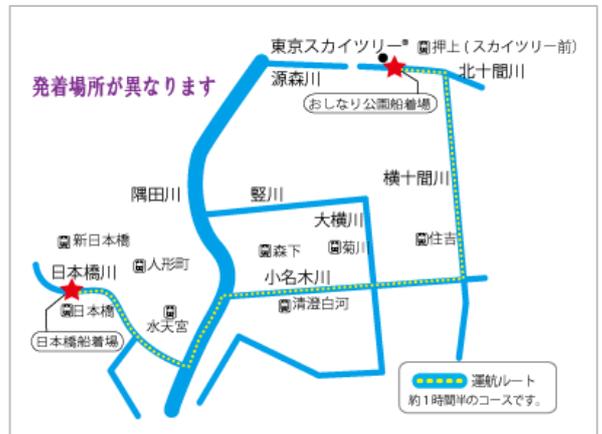
更なる魅力溢れる都心の水辺としていくために、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて今から私たちができることについて一緒に考えてみませんか？

なお、船上座談会の様子や皆様の貴重なご意見を集約し、行事開催後、(匿名にて) JRRN ホームページ等を通じて後日ご紹介させて頂く予定です。

JRRN 会員・非会員に関わらず、多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。



コース 1 (午前便) : 日本橋 発着



コース 2 (午後便) : 日本橋→おしなり公園

- 行事名： 初春の都心の舟めぐり (船上座談会)
- 開催日： 2014年3月4日(火)、3月15日(土)
- 舟めぐりコース： ※乗船時間は両コース共に90分
 - ・コース 1 (午前便) : 日本橋→日本橋川→神田川→隅田川→日本橋 ※右図参照
 - ・コース 2 (午後便) : 日本橋→隅田川→小名木川→横十間川→おしなり公園 ※右図参照
- 集合場所： 日本橋船着場 (東京都中央区)
- 募集人員： 中学生以上の一般の方 (各便9名×4便=計36名)
- 参加費： 無料ご招待
- 応募方法： ※応募多数の場合は抽選になります
以下のページより案内チラシをダウンロードの上、必要事項を FAX または Email で送付願います。
※案内チラシダウンロードページ
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/402.html>
- 応募〆切： 2014年2月14日(金)
- 参加決定連絡： 2月18日(火)頃を予定 (当選・落選に関わらずご連絡を差し上げます)
- 問合せ先： JRRN 事務局 (担当：後藤・和田)
Tel: 03-6228-3862 E-mail: info@a-rr.net

JRRN 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 江戸東京再発見コンソーシアム 共催

祝！東京オリンピック・パラリンピック開催決定企画

初春の都心の舟めぐり 無料ご招待

～2020年の東京の川の話をしよう(船上座談会)～

コース1 神田川コース (乗船時間: 1時間30分)

東京の歴史と文化を育んできた日本橋川・神田川・隅田川の歴史と自然をめぐります。

開催日: 2014年3月4日(火)、3月15日(土)

ルート: 日本橋船着場→日本橋川→神田川→隅田川→日本橋船着場

集合場所: 日本橋船着場(09:45集合)

解散場所: 日本橋船着場(11:30)

コース2 634(ムサシ)コース (乗船時間: 1時間30分)

お江戸日本橋から扇橋門を経て東京スカイツリーへ、新田の江戸東京をめぐる。

開催日: 2014年3月4日(火)、3月15日(土)

ルート: 日本橋船着場→日本橋川→隅田川→小名木川→横十間川→北十間川→おしなり公園船着場

集合場所: 日本橋船着場(09:45集合)

解散場所: おしなり公園船着場(14:00)

募集人員: 各便9名(合計36名)

参加費: 無料ご招待

申込方法: 裏面参照(申込多数の場合は抽選)

申込締切: 2014年2月14日(金)

申込方法等の詳細は裏面をご覧ください

この件に関するお問い合わせ
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局(担当:後藤・和田)
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 新川中央ビル7階(公財)パーパス研究所内
E-mail: info@a-rr.net Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640

「初春の都心の舟めぐり」案内チラシ
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/402.html>
(JRRN 事務局・和田彰)

企画展「魚(うお)のみち」を開催中

埼玉県立川の博物館では、平成 26 年 1 月 25 日(土)より同年 2 月 23 日(日)まで企画展「魚(うお)のみち」を開催しています。当館は「荒川を中心とした埼玉県の川や人々の暮らしとの関わり」をテーマとした、河川系総合博物館として運営されています。今回の企画展は、大阪府・国土交通省近畿地方整備局が大阪市の「川の駅はちけんや」で開催した『魚道展 川を旅するサカナたちの通り道』の展示資料を基に、利根大堰魚道『大堰自然の観察室』(埼玉県行田市)の等倍映像などアレンジを加えて展開しました。また、研究機関の東京学芸大学環境教育研究センター、独立行政法人土木研究所自然共生研究センターとの連携展として開催しました。

埼玉県は海のない県ですが、荒川、利根川という大河川が流れ、県土の面積の河川の占める割合(3.9%)が日本一です。しかしながらそれらの河川では、高度成長期に環境や水質が悪化し、人口増加による都市化・工業化などで、子どもたちの遊んでいる姿や、魚を獲っている人々の姿は消え去りました。そしてまた、災害の対策としての治水、水の使用量の増加によりダムや堰が相次ぎ建設されました。その結果、海と川を行き来する、アユ、サケ、ウナギなどの回遊魚にとって成長や産卵のため必要な海と川の連続性が失われてしまいました。解決策として全国各地の川で「魚道」の設置が試みられていますが、マスコミ報道などでその存在は知られていても、魚道についての役割や効果についての理解は十分とはいえず、まだまだ課題も残されています。



本展示では、まずはパネルで魚道について基本的な解説、全国各地での導入例や様々な取り組みを紹介しました。次に目玉である埼玉県の代表的な魚道を紹介

寄稿者：藤田 宏之(埼玉県立川の博物館 学芸員)

する展示として、利根大堰の魚道を遡上するシロザケなど魚類の様子が観察できる窓を等倍の大型映像にて投影しました。映像と音声を通じて魚道観察窓のライブ感を演出し、魚道の役割をわかりやすく理解できるよう工夫しました。また、当館の目の前を流れる荒川の魚道として、近隣の六堰頭首工魚道、明戸床止魚道に注目し、魚道の特徴やモニタリング調査で多種確認されている魚類や甲殻類などを写真で紹介しました。さらに、魚道を利用する回遊魚の代表的種であるシロザケ、ニホンウナギ、アユなどを標本で展示し、魚道を利用する水生生物の天敵であるカワウやサギ類も剥製標本で展示しました。



利根川では多くのシロザケが遡上し、利根大堰の魚道を越えて埼玉県北部から群馬県南部にかけて自然産卵しています。平成 25 年のシーズンは過去最高の 18,696 個体が魚道を越えました。このように実績を上げている例もありますが、土砂の堆積や河床が低下して落差が大きくなるなどして機能しなくなっている魚道があるなど、メンテナンスが大きな課題になっています。そこで、埼玉県で始まった取組みとして、荒川支流人間川における古くなった農業用取水堰と魚道を改修する事業をパネルで紹介し、展示を締めくくりました。本展示を通して、一般に広く魚道について注目していただき、問題の解決に向けて技術が進歩することを期待したいと思います。さいごに、協力をいただきました機関、個人の方々には厚く御礼申し上げます。



川系男子の『川と人』めぐり No. 21～近畿地方の川～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介します。

♪垣根の垣根の曲がり角 たき火だたき火だ落ち葉焚き あたろうか あたろうよ 北風ぴーぷー吹いている

(唱歌『たき火』 作詞：巽聖歌，作曲：渡辺茂)

表 1 近畿地方行程表

日時	午前	午後	訪問先
12月10日(火)	つくば⇒福井	九頭竜川	福井県庁 福井河川国道事務所
12月11日(水)	北川 由良川	円山川	福知山河川国道事務所 福知山環境会議 豊岡河川国道事務所
12月12日(木)	揖保川 加古川	猪名川	姫路河川国道事務所 リパークリール・エコ炭銀行 兵庫県庁 猪名川河川事務所
12月13日(金)	淀川(京都)	淀川(琵琶湖)	京都府庁 滋賀県庁 琵琶湖河川事務所 NPO法人瀬田川リバプレ隊
12月14日(土)	淀川(芥川)	淀川(芥川)	芥川倶楽部 芥川緑地資料館(あくびあ)
12月15日(日)	淀川(京都)	淀川(京都)	京都府環境フェスティバル 河童研究会
12月16日(月)	淀川	大和川 関西空港⇒福岡	淀川河川事務所 淀川資料館 大和川河川事務所
12月17日(火)	遠賀川(直方川づくり交流会200回記念祝賀会出席)		遠賀川水辺館
12月18日(水)	福岡⇒東京	東京	高橋裕先生「川のサロン」
12月19日(木)	つくば⇒奈良	淀川(木津川)	奈良県庁 木津川上流河川事務所 和歌山河川国道事務所 水ときらめき紀の川館 NPOきらめき紀の川 紀南河川国道事務所
12月20日(金)	紀の川	紀の川	河川を美しくする会
12月21日(土)	熊野川	熊野川	和歌山県世界遺産センター
12月22日(日)	熊野川	熊野川	大阪⇒つくば

1. 試練の一人旅

2013年12月10日～22日にかけて近畿地方の川に調査に出かけた。いつもなら、研究室の仲間が1～2名同行してくれるのだが、時期的に皆論文等で忙しく、助っ人はなし。いくつもの資料やお土産など、大荷物なので一人で運ぶのが大変なのはもとより、なにより少し心細い。某名作ロールプレイングゲームでも主人公・勇者は途中、仲間と別れ一人で冒険しないとイケないそんな試練の時が訪れる。体力尽きて全滅のリスクもあるのが勇者の一人旅であるが旅を終える頃にはレベルもアップし、強くなって帰還する。そんなRPG主人公に川系男子の心境を重ねつつ、冬の近畿地方の川へと旅立った(表1, 図1)。

2. 吹き付ける日本海の洗礼

12月10日(1日目)、福井に向けて旅立った。初めて降り立った福井の空はどんより薄暗かった。福井県庁と福井河川国道事務所を訪ね、情報を集める。福井県には、九頭竜川と北川が流れているが、福井県の大半を占めるのが九頭竜川流域である。福井市の中心部を流れる川は九頭竜川足羽川で、堤防沿いの桜は桜並木百選にも登録されている。

今回は時間の関係で川は車内から眺めるだけで残念であった。打ち合わせ等を終えた頃にはすっかりあたりは真っ暗。一人大がかりな荷物をかかえ、スーツケースを押す。向かう方向からは冷たく、雪が吹きつけてくる。一人旅は辛く寂しい。そんな心境にならずにはいられなかった。逆にいつも誰かがそばにいてくれる仲間へのありがたさを身に染みて感じた。

その日の夜は小浜市に宿泊。福井から小浜までローカル線で移動する。全国色んなところを電車に乗っていると必ず中高生集団に出くわす。あまりにひどい時は注意することもある。地域性といっても個人差はあるだろうが、福井の中高生の電車内でのマナー、勤勉さは全国の模範となれる完璧さであった。



タカアキLv. 26
職業：川系男子
HP: 30/111, MP: 10/88, 川スコア: 355/600
特技：カワソビ、ガサガサ
呪文：オンガガワ、オンガホリカワ、ヨネシロガワ、ソノギガワ
装備：たびびとのペン、ぬのてぶくろ、うすでのコート
もちもの：ちょうさどうぐ、つくばのみやげ、おれないこころ

コウハイ1「センパイ、今回は一緒に旅に出れませんが、最後まで頑張ってきてくださいね！」
コウハイ2「旅に役立つ地図と旅程表です。これをお供にどうぞ。」
タカアキはたびびとのちずとりよていひょうを受け取った。
センセイ「倒れそうになったらいつでも戻ってきていいからね。」
12月10日、タカアキはナオキの酒場※1を一人で旅立った。
タカアキは近畿地方の『川と人』めぐりへむかった。

ここまでの冒険を冒険の書に記録しますか？
⇒はい いいえ タカアキLv.26 ナオキの酒場

図 1 川系男子の冒険の書 (1日目)



図2 由良川



図4 円山川



図3 岩沢堤建設記念碑（明治42年）



図5 豊岡藩士・中江種像翁の銅像

3. 由良川

12月12日（2日目）、この日の朝は、早起きして小浜市内を流れる北川を見に行く予定だった。目覚めた時には8時前！電車があと10分程度で出てしまう！これを逃すと2時間先まで電車が来ない。慌てて起きて荷物を持ってチェックアウト。人間本気になるとなんとかなるもので、無事時刻通りの電車に乗れた。なかなか一人だと気楽ではあるが、疲労も大きい。なかなか厳しい2日目の始まりになった。小浜をでて、福知山まで向かう。電車の中のおばちゃんたちの会話がだんだん関西弁に近いイントネーションに変わってきたことから京都府が近づいていることが分かる。

福知山に到着。福知山を流れる由良川（図2、図3）とそこを管理する福知山河川国道事務所を訪ねた。福知山市には福知山市民環境会議という団体があり、当日お会いすることができた。福知山市民環境会議は2002年（平成14年）1月に発足した団体で、福知山市環境基本計画を策定し、それに基づいて、定期的に活動を行ってきた。代表的な活動が月1度の定期活動である。

4. コウノトリの舞う川

福知山を出発し、豊岡へ。円山川と豊岡河川事務所を訪ねた。円山川（図4）は日本海に向かって流れる河川で、河口付近には志賀直哉の小説「城の崎にて」のモデルになった城崎温泉がある。円山川流域は国土交通省の自然再生事業が実施された河川で、コウノトリ野生復帰の取り組みが進められている。現在ではコウノトリが円山川周辺に野生復帰し、運が良いと、川沿いを散歩していると川の中で餌をとっているのが確認できるという。最近ではコウノトリを活かしたコウノトリ米、日本酒など商品のブランド化で地域おこしにもつながっている。

駅から5分程度歩いたところにあるロータリーの中心部に大きな銅像が建立されている。この銅像は豊岡藩士・中江種像翁の銅像（図5）である。中江種像は生野銀山、足尾銅山、草鍋銅山、国盛鉱山などの開発に携わる。鉱山開発で莫大な富を得た。大正10年に豊岡市上下水道建設費33万円（現在にして200億）の工事費用全額の寄付を申し出た。建設における中江種像の唯一の条件は上下水道の収益金を利用して、町の奨学基金をつくる事が要望され、この奨学金制度は現在も続いており、現在においてもまちに多大な貢献をしている。



図6 竹炭

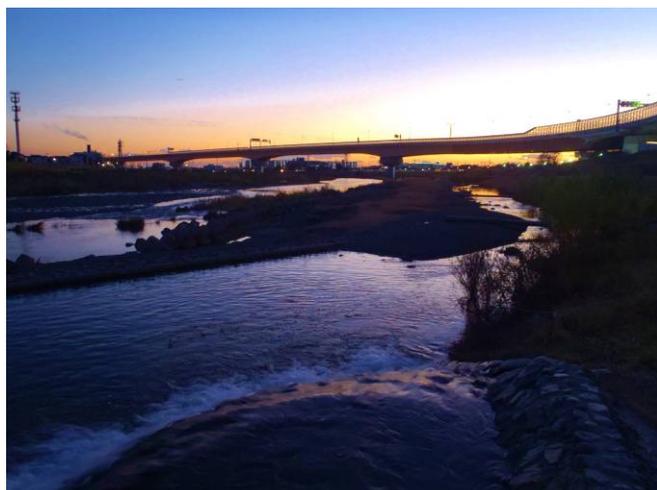


図7 猪名川

5. 通貨は炭？炭で加古川を変える

豊岡を後にし、姫路へ。日本海側を抜けて太平洋側に出てきた。姫路に着いた頃にはすっかり夜であったが、姫路の夜は明るく活気があった。今年の大河ドラマ「軍師 官兵衛」の舞台の姫路城を少し見学。現在は改修期間のため、美しい天守閣は見えないが、周りの城壁からも美しさが分かる。

翌日12月13日(3日目)、姫路河川国道事務所を訪ねた。加古川を案内していただいた。実はこの事務所、元遠賀川河川事務所長さんが姫路河川国道事務所です。つい最近まで事務所長をされていた。僕の高校生の頃、遠賀川で大変お世話になった所長さんだ。職員の方曰く、「所長は姫路の川づくりを担う我々によく、遠賀川の川づくりの話がされました。遠賀川には夢プランという独特の合意形成があって、河川管理者は住民に寄り添って対話できる関係づくりに努めるようによく言われました。」遠賀川の川づくりが姫路でも生きている。福岡と姫路は黒田官兵衛ゆかりの地でもあり、姫路に親近感を感じずにはいられなかった。

姫路河川国道事務所は揖保川と加古川を管理しているがそのうちの一つ、加古川を案内していただいた。加古川は年間を通して比較的流量が少ない河川で、上中流部には周囲にため池も数多い。

加古川の下流部を拠点に活動する団体、リバークリーン・エコ炭銀行(2003年3月発足)を訪ねた。炭には水を浄化する効果があり、この団体では加古川上流域から切り出した竹を炭にして、河川や水路に埋設する活動に取り組んでいる(図6)。エコ炭銀行が扱うのはお金でなく、炭を通貨としている。例えば70kgの炭を持ち込んで焼いてもらえば21kgの炭ができる。竹を割った人、竹を焼いた人、銀行と3分の1ずつ分け合う。分け前は1エコタン/kgという単位を用いて、エコ炭銀行に預けることができる。必要な時に使うことができる。銀行の取り分は河川浄化や活動費獲得の販売などに使われるというユニークな仕組みだ(平成20年8月7日神戸新聞)。これが進めば加古川は確実に綺麗になっていくだろう。



図8 堀川(京都)

6. 都市河川猪名川の川風景

加古川を後にし、猪名川河川事務所へ。猪名川は大阪府池田市を流れる河川で、淀川の支流に当たる。普通、河川事務所は河口まで管理することが多いが、神崎川との合流点までの管理で、神崎川の方は大阪府の管理になっている。合流以降は神崎川になるので、普通なら神崎川河川事務所とか名前がつくはずだが、あえて猪名川。ちょっと不思議な事務所だ。

事務所を訪ねた後に、猪名川を案内してもらった。夕暮れ時であったが、川の流れの自然曲線と高速道路の人口曲線の両者の曲線美が交わる都市河川ならではの光景であった(図7)。

7. 夜の京都堀川

猪名川を出て、今夜は京都市内に宿泊。宿のすぐそばには堀川が流れている(図8)。全国に20河川以上ある堀川という名の河川がある。私の地元の遠賀堀川も歴史がある川だが、この堀川は平安からの歴史があるというから、さすがは京都1200年。

この日は、大学学部時代からの京都の同世代の川仲間、通称さっちゃんに再会した。水フォーラムでの過去の思い出、近況の自身の河川への関わりなどを話し、旧交をあたためた。



図9 瀬田川洗堰



図10 夜の琵琶湖の水面イルミネーション

8. 河童の鈴木さんはどこだ？

12月14日(4日目)、昨夜、川仲間さっちゃんとお川談義をしている時、こんな話を聞いた。「そういえば、さっかん(筆者のあだ名)、『河童の鈴木さん』って聞いたことある？京都で水の活動している人なら知る人がいないくらい有名な人よ。」河童の鈴木さん？聞いたことがなかった。どのへんが河童に似ているのだろうか勝手に想像していると、すかさずさっちゃん、「河童の鈴木さんっていうのは、河童研究会っていう会をしているからね。京都府庁の府民力推進課っていうところにいるらしいから会ってみるとええわ。」

翌日、ちょうど、京都府庁に訪問する用事もあったので、府庁の別の課で聞いてみた。「あの、つかぬこと伺いますが、河童の鈴木さんってご存知ですか？」「ああ、あの鈴木さんね。」部署が違ってもわかるくらい有名人らしい。建物を教えてもらい、府民力推進課を訪ねてみた。河童の鈴木さんは課の課長さんだった。突然の訪問だったにも関わらず、鈴木さんはお話を聞いてくださった。「川系男子かあ！面白いことやっとなるあ！そうだちょうどい！日曜日に環境フェスタがあるからそこにおいて私もブース出すし、色んな人に会えるよ。」京都市内の環境団体が集まるイベントがちょうど開催されるらしい。調査にとっては有力な情報を得て、この日は京都府庁をあとにした。河童の鈴木さんとは、府庁にいる府民力を推進する課の課長さんであった。

9. マザーレイク琵琶湖

京都府庁を後にして、滋賀県を目指した。京都から大津は駅2つ分とかなり近い。しかし、盆地の京都から滋賀側に抜ける際には、長めのトンネルを抜ける。ここが琵琶湖と鴨川の流域界であることがよく分かる。琵琶湖疏水は琵琶湖から京都に通水した田辺朔郎の大事業であるが、この地形をくりぬいたのかと思うと、事業の大きさがよくわかる。

滋賀県庁へ向かうため、大津で下車。ようこそ、マザーレイク滋賀へと書いた看板が。日本最大の湖

は滋賀県の顔として来訪者を迎える。そんな大きな湖のある県だからか、滋賀県庁を訪れた際、職員の方も「遠いところ、ようこそ滋賀県へ！」と歓迎して下さいました。

滋賀県庁で調査の情報提供を受ける。滋賀県は琵琶湖があるからなのか、市民団体数も近畿の都道府県の中でずば抜けて多い。

その後、琵琶湖河川事務所へ。河川事務所は琵琶湖の流出口付近にあり、瀬田川、野洲川、大津放水路を管理している。

琵琶湖流出口付近には、瀬田川洗堰(図9)がある。この堰の前身は南郷洗堰で、明治33年~41年にかけて行われた淀川改良工事で、洪水と渇水の相反する2つの課題を解決するために設けられたのが旧洗堰(南郷洗堰)であった(琵琶湖河川事務所HPより)。

そんな歴史のもつこの堰だが、現在の瀬田川洗堰より少し上流に旧洗堰が残っている。

そんな瀬田川付近で活動をしているのがNPO法人瀬田川リバプレン隊だ。この会は2000年に琵琶湖河川事務所が瀬田川改修100周年を記念して、「瀬田川リバプレン隊」を結成。2003年にNPO法人を取得し、自主的な活動をスタートさせている。主な活動は瀬田川のヨシ刈、ヨシ笛コンサート、植物観察、外来種魚釣り、水質調査、講演会など多岐に渡る。河川事務所がきっかけをつくったことで素晴らしい活動が瀬田川に根付いたともいえるだろう。

アクア琵琶と琵琶湖河川事務所を後にし、大津へ戻る。あたりはすっかり夜になっていたが、夜の琵琶湖を散歩。湖面にはイルミネーション(図10)が浮かべられている。イルミネーションの遠くの岸には夜景の明かりも見える。雄大な琵琶湖はまさにマザーレイクと呼ぶにふさわしい湖沼であった。

今夜も同世代の川仲間、通称ざっきーに会った。彼は京都大学の博士課程の学生で博士号取得間近。博士課程に行く先輩として色々アドバイスをもらった。自身が踏み入れた世界は孤独であり、常に自身との戦いの世界であることを改めて理解した。



図 1 1 芥川倶楽部で削った魚道



図 1 2 芥川緑地館 (あくあピア)

1 0. 芥川の休日

12月15日(土)(5日目),休日に芥川を訪ねた。実は、先月、東京でいい川・いい川づくりワークショップが開催された際に、芥川倶楽部の方々の発表を聴き、芥川とその活動に興味をもった。発表後の懇親会で知り合いになり、「次回近畿地方に伺う際にはうちにも寄っていいよ。」と言われていたので、遠慮もなく、押しかけてしまった。

休みの日も関わらず、私一人のために5名以上もの人が対応して下さり、終始申し訳ない気持ちでいっぱいであった。

この会は、2005年に生き物との触合いを通じて、市民の心の豊かさを回復する芥川になることを目指して、「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク(愛称:芥川倶楽部)」を設立した。

芥川倶楽部の活動の特徴は、市民工事にある。芥川大橋すぐ上流の堰に魚道がなく、堰直下までしか上ってないことが分かり、魚みち工事を開始。なんと魚道は手作りで、みんなで土嚢をつみ、実験魚道を設置。簡易であっても魚道、魚は上流に上るようになった。その後も徐々に上流に向けて、簡易魚道を設置。普通なら河川管理者以外の市民が工事を取り仕切るなんて聞いたことない。河川管理者はこの市民工事を参考にしながら、常設魚道を設置。その



図 1 3 芥川の滞筋づくり経過(提供;あくあピア)

魚道の出来映えに疑問を感じたら市民が手を加える。魚道の階段部があまりにもとがっているため、構造物をちょっと削ってみることにしたという(図11)。ちょっと河川をいじってみることができるのは、市民と行政の信頼関係が強いからこそ例といえるだろう。また、芥川倶楽部は芥川緑地資料館(あくあピア)(図12)の指定管理者にもなっており、運営は大阪自然史センターと市民団体同士でJVを組み、運営を行っている。外側からだと、広さをあまり感じないが、中に入ると地底迷宮のように奥行きがあり、魚類の生態展示はじめ、哺乳類、鳥類、昆虫などの標本も多数展示してある。一つ一つの展示には細かな工夫が施されており、博物館のようだ。

芥川倶楽部の市民工事は魚道だけにとどまらない。あくあピア前を流れる芥川の滞筋を工事している。親水用につくられて階段があるのに、すぐ下は流れが急で、子どもが遊ぶには危ない。水辺に近づきやすいように、水の流を変えられないか、併せて多様な生物生息環境を創出することを目的にスコープを使って市民の人力で工事を行っている。今の滞筋から新たに分流する副流路をつくる計画だが、流路にするため全て掘削すると相当な土砂量で、相当な労力を要する。しかし、芥川倶楽部の工事は一味違った。ここでうまく、川の力を利用した。ある程度、滞筋にしたいところを薄く小さく掘っておき、出水期に川に洪水が起きた時に小さな掘削箇所を川がどんどん削り、大きくして完全に新たな滞筋が完成した(図13)。川の浸食力を巧みに利用した技で、人力2割、川の力8割くらいの割合で工事ができている。

多自然川づくりの概念にもあるように、『人間は最初のお手伝いだけであとは自然に任せる。』この工事はまさにその典型例で、低コストで高効率な工事を実現している。また、この工事の価値は中小河川規模の芥川でできたということにも価値が大きい。この規模の中小河川は全国にたくさんあるため、予算が無くとも、うまく川の力を利用するこの事例を参考にすれば全国の中小河川で素晴らしい河川再生が展開されていくと思う。市民による小さな河川再生に無限の可能性を感じる芥川であった。



図 1 4 京都環境フェスティバル

1 1. 京都環境フェスティバル

12月16日(日)6日目,先日,河童研究会の鈴木さんに日曜日にフェスティバル(図14)にくると京都の市民活動のことがよく分かるよ。言われていたので,訪ねてみた。

鈴木さんも河童研究会で伝統漁具等の展示ブースを出していた。河童研究会は2001年に設立した団体で,水が好きな人が参加しているボランティア団体が集まり,2003年の「第3回世界水フォーラム」の開催地として水に関する伝承や食文化について研究し,発信することを目的に発足し活動してきた。(私も第4回世界水フォーラム(メキシコ大会)に参加した際に伝統文化を紹介したことがあるが,閉会式に河童の衣装で登場し,河童の生態を紹介したことがある。)活動分野の主体が文化活動というのは,数ある河川市民団体の中でも稀有な事例だと思う。

河童が好きすぎて,自ら訪ねてきて,入会した大学生にも会えた。彼は芸術を専攻する大学生で,自ら河童のイラストを描き,ポストカードや管パッチもつくっていて,当日も河童に変装している彼の河童への愛情は人一倍深い。同じ河童好きとして意気投合した。

会場内には,京都近郊の環境活動団体がブースを出展しており,様々な団体の方とお話することができた。中でも驚いたのが鴨川を美しくする会。この会はなんと結成50年目!こんな長く活動している団体は今まで聞いたことがない。京都周辺の鴨川や桂川には30~40年目を迎える河川市民団体が多く,驚かされる。率直にどうしてそんな長く活動してこれたんですかと尋ねたら,皆,「そりゃ,京都は遷都から1200年の歴史があるからねえ!先人から引き継がれてきたこの場所を美しく守っていかんと」と回答が。先人から受け継がれてきた文化を守る精神が長くに渡り京都の水環境も美しく保ってきたのだろう。今回,京都環境フェスティバルに参加し,様々な出会いもあり,大変有意義な時間を過ごした。



図 1 5 淀川

1 2. 近畿最大の川

12月17日(月)7日目,今日は近畿地方訪問前半編の最終日。淀川河川事務所を訪ねた。淀川河川事務所のすぐ裏には,淀川本川が流れている(図15)。さすがは近畿一の河川だけに高水敷も広く,川幅が大きい。淀川は源を滋賀県山間部に発し,琵琶湖に水を集め,大津市から南流し,神崎川と大川(旧淀川)に分派し,大阪湾に注ぐ。幹川流路延長75km,流域面積8,240km²と大阪,兵庫,京都,奈良,三重の2府4県にまたがる。また,淀川はところどころ名前を変えて,上流部では瀬田川,中流部では宇治川,桂川,木津川合流後は淀川となる。

淀川河川事務所で,淀川の概要と市民活動に関するお話しをお聞きした。また,わざわざ桂川流域クリーンネットワークの事務局であり,淀川で河川レンジャーをされている,仁枝さんが来て下さった。猪名川,木津川,淀川の淀川水系の事務所では,河川レンジャーと呼ばれる人たちが活躍している。河川レンジャーは2003年(平成15年)に淀川流域委員会提言の中で出されたもので,河川整備計画の策定・推進において,住民等との日常的な関係を築き,異なった主体間の意思形成を図るため,住民等と行政との間に介在し,コーディネートする主体と位置づけた(河川レンジャーHPより)。

仁枝さん曰く,「大きな川だから一つの団体がどうこうではなく,みんなでそれぞれの地域で個々に川を守っているんです。私達は桂川の掃除で一生懸命です。」

琵琶湖,芥川,桂川など,それぞれの場所に淀川流域には抜群の川守がおり,様々な活動を展開している。8,240km²の流域をみんなで少しずつ分担して守っていくことは流域の保全につながる。

淀川河川事務所を訪問後は大阪府庁を訪ね,大阪府の管理する淀川水系の川の情報を集め,淀川をあとにした。



図 1 6 大和川付替地図 (出典：大阪府の歴史)



図 1 8 川系男子の近畿中断中の移動経路



図 1 7 大和川より分派する小河川 (旧大和川部分)



図 1 9 直方川づくり交流会 200 回記念定例会

1 3. 大規模付け替え大和川

午後からは大阪を南に下る。大阪南部を流れる大和川を訪ねる。大和川は笠置山地を源に発し、佐保川、曾我川、竜田川等の奈良盆地の水を集め、奈良県と大阪府の境にある亀の瀬の溪谷部を経て大阪平野に入る、石川、西除川などをあわせ、大阪湾に注ぐ。流域面積 1,070 km²、幹川流路延長 68 km (自身の故郷の遠賀川の流域面積は 1,025 km²で、幹川流路延長は 61 km と流域の規模は非常に類似している)。

大和川は江戸時代までは淀川に注いでいた (図 1 6)。しかし、度重なる堤防決壊が起き、大水害が起こる (1615 年～1704 年の間に十数回の大水害)。これを解消するために、淀川と大和川の合流付近あたりから西に向けてまっすぐ流す大和川付け替え案を幕府に嘆願。しかし、付け替えにより、田畑が失われる農民もあり、かなり揉めたようである。幕府の決定で付け替えが決まってからは、わずか 8 か月で延長 14 km、川幅 180m を掘ったという。これが今日の大和川を築いている。河川事務所の人曰く、「今の世じゃ、まず出来ない大計画ですね。」

大和川の旧川後は小さな川になりつつも今も水が流れており、主に灌漑用水としての機能を果たしている (図 1 7)。

1 4. 小休止

大和川を後にし、このあと、和歌山方面に向かいたいところだが、一旦近畿地方を離れる (図 1 8)。12 月 18 日、19 日に外せない用件が入ってしまい、やむなく。

一つは私のホームグラウンド、遠賀川の直方川づくり交流会 200 回記念式典に出席 (図 1 9)。平成 8 年から活動をはじめ、毎月定例会を開催してきて、200 回に至る。「お祝いだからあなたも帰ってきなさい。そして司会進行や発表もするように。」と命ぜられれば断る理由などない。遠賀川の母、野見山ミチ子さんははじめ直方川づくり交流会の方々の 17 年間の努力にただただ敬意を表したい (お祝いのメッセージを送って下さった全国の川仲間の皆様、ありがとうございました)。

お祝いの楽しい時間もあっというま、翌日には東京へ。今日は東京大学名誉教授高橋裕先生から講義を受ける日。これはかかせない。高橋先生の理路整然と出てくる河川の諸元や過去の水害の状況はまるでその場に立っているかのようにお話しになる。少し賢くなった？後、翌日には近畿地方へ戻り調査再会。今回の調査は大移動もあり、大忙しの調査となった。



図 2 0 紀の川大堰



図 2 1 那智の滝と青岸渡寺

1 5. 今ひとたびの奈良へ（木津川）

12月19日（木）、通算で10日目。近畿地方調査再会。奈良県入りをし、最初に奈良県庁に向かった。奈良県庁につくと、入り口付近にはシカが普通に闊歩している。目の前の道路も普通に横断。しかし誰も驚かず、当たり前のように目の前を通り過ぎていく。奈良はここまでシカ社会なのには驚いた。奈良県庁で奈良県の河川の概要を聞く。奈良県は大和川、紀の川、十津川（熊野川）の主要三河川があるが、どれも源流は奈良県に当たる。そういう意味でも奈良県の果たす役割、責任は大きい。

奈良県庁を後にし、木津川河川事務所へ。木津川は、三重県方面から奈良県を通り、淀川へ合流する。あまり川を見る時間がなかったので、そのまま和歌山へ向かった。

1 6. 紀の川大堰と魚道

12月20日（金）11日目、和歌山市からスタート。和歌山市を流れる紀の川と和歌山河川事務所を訪ねる。和歌山河川事務所の方が紀の川を案内して下さった。紀の川は流域面積1,750 km²、幹川流路延長136 kmの河川で、中央構造線に沿って流れ、紀伊水道に注ぐ。河口から6.2 km地点にある紀の川大堰（図20）を見学。紀の川大堰は紀の川で渇水と洪水の相反する両者の課題解決のために設けられた堰で、平成7年に工事が始まり、平成23年に完成している。主な堰の機能としては、取水堰、分水堰、潮止堰などの機能を有している。また、大型の横断構造物であるため、魚道は呼び水水路まで入れると3種類設置されていて、様々な魚類の遡上にも配慮している。主な対象魚種は、アユ、サツキマス、ヨシノボリ、ウナギ、モクズガニなどとなっている。中でも人口河川敷魚道は高水敷に距離を確保する事で勾配が非常に緩くなっており、遊泳力の弱い魚でも遡上できるほか、アユの産卵床としても使用できるつくりとなっており、大型河口堰の中でも河川生態系の負荷をできるだけ少なくするつくりになっている。堰断面には魚道観察室があり、魚の遡上を確認できる。



図 2 2 熊野川と土砂災害（がけ崩れ）

1 7. 熊野川をめぐる

午後からは紀南河川国道事務所へ。この事務所は新宮市内を流れる熊野川を管理しているのだが、河川からかなり離れている。この日はここで終了し、新宮市へ。12月21日（土）12日目、新宮市の熊野川で活動する河川を美しくする会の堀井会長と中岸副会長にお会いし、お話しをうかがう。河川を美しくする会は昭和57年に新宮市周辺を流れる河川を美しくすることを目的として結成された会で、毎年新宮市内の熊野川や市田川の河岸の清掃活動を行っている。どこでも行われていることではあるが、地道な活動が30年以上続いてきたのは何にも代えがたい価値がある。

会を訪ねた後は午後からは高校時代からの遠賀川と一緒に活動し、大学も一緒だった友人岩見と合流。仕事の配属先が大阪ということもあり、かけつけてくれた。岩見と一緒に熊野川流域を周る。徐福公園、熊野速玉大社、熊野那智大社などを周る。日本三大名瀑として名高い那智の滝は圧巻であった（図21）。

また、熊野川沿いを上がっていると、平成23年の大水害の爪痕があちこちに残る（図22）。熊野川は現在激甚災害対策特別復旧事業が行われており、改修工事があらゆるところでみられた。



図 2 3 川 (左) と仙人風呂 (右)

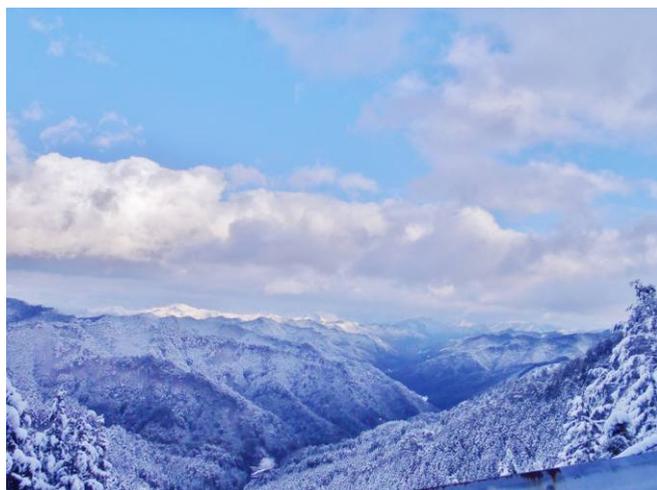


図 2 5 流域界の雪景色

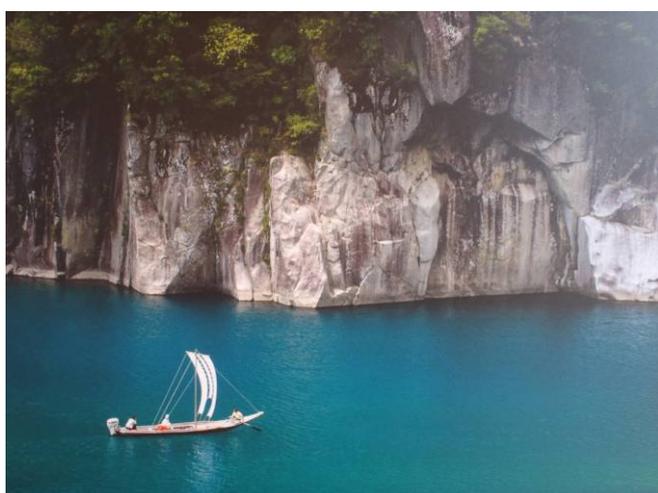


図 2 4 川の熊野古道 (世界遺産センター看板)



図 2 6 高野山金剛峰寺

1 8. 川の熊野古道へ

12月22日(日), 13日目最終日. 朝は川湯温泉からスタート. 川湯温泉街に公衆露天風呂の仙人風呂がある(無料)(図23). この風呂はまさに川湯で, 川から温泉が湧いている. 砂湯なので, ところどころ熱い箇所と温い箇所がある. 朝から川を見ながら温泉に入れるとはなんとも贅沢であった.

熊野川は幹川流路延長183km, 流域面積2,360km²の奈良県と和歌山県を流れる大河である. 古代から中世にかけて, 小辺路, 中辺路, 大辺路と熊野古道とよばれる参詣道は有名だが, 中でも中流域の熊野本宮大社(旧社地大斎原)から新宮権現河原までは行き返りは熊野川の舟運を利用することが多いため, 『川の熊野古道』(図24)として位置付けられてきた. 古の熊野参詣の情緒を感じながら熊野川を遡る.

奈良県に入ると名前が変わり, 十津川と呼ばれる. 奈良県側には電源開発の建設した水力発電用ダムが数多くある. 熊野川流域にはダムは多くあるものの, 治水機能を持ったダムはない. これだけの出水が起こる川でありながら今まで一つもなかったのは珍しい. 平成23年の水害を受けて, 国土交通省と電源開発は協定を結び, 利水専用ダムであってもある一定以上の洪水が予想される場合は治水容量確保をお願い

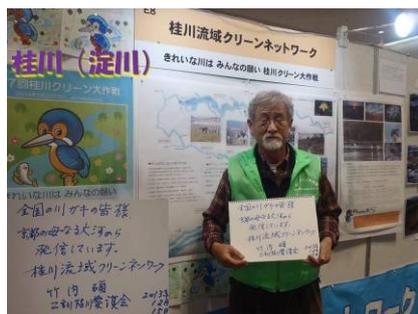
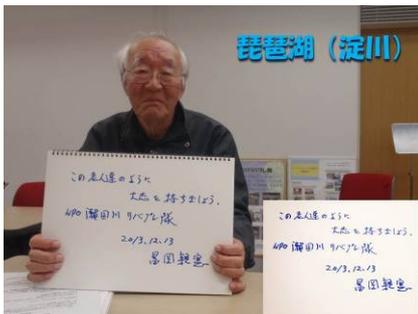
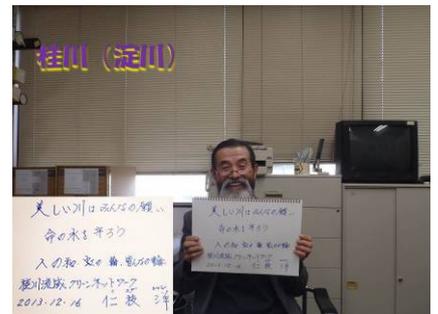
いすることができるようになった. 全国でも初の取り組みと思われる. 十津川をさらに遡る. 昼食時になっても山ばかりで飲食店がない. 空腹を感じながら, 峠道に差し掛かった時, 『オアシス屋』という店が出現. 高野豆腐発祥の店らしく, 豆腐をたくさんご馳走になり, 生き返った. まさに山の中のオアシスであった. オアシス屋のおじさんに「この先の峠道は雪深いから気をつけるんだよ」と忠告を受け, 心して進んだ. 周りは雪深くなってきた. まさか近畿でこんな雪深いところを経験するとは思ってもなかった. 峠の頂上付近まで来ると, 木々の間から視界が開けた(図25). 白銀の雪山が眼下に広がり, 美しい光景を目に焼き付けた. その後, 熊野川の流域界を越えて峠を降りると, 高野山金剛峰寺に差し掛かった. 金剛峰寺(図26)で弘法大師に今回の旅を安全に終えることができた感謝をお参りし, 近畿地方の旅を終えた.

19. 旅のおわりに

今回は途中近畿から離脱した期間もあり、長い旅程となった。一人でこの行程をこなすのは大変厳しかったが温かく現地の人を迎えてくれたおかげで元気に周ることができた。一人旅の冒険の主人公、川系男子はどれだけ成長できたか定かではないが、何か得るものは大きかったようである。今回の川巡も非常によい経験をたくさんすることができた。

109水系めぐりとしては88水系をめぐり、あと中部地方と関東地方の21水系を残すのみとなった。ゴールは確実にみえてきた。

最後に今回、近畿地方を巡るにあたって調整して下さった近畿地方整備局の臼井義幸様、小島淳様に御礼申し上げる。また、各河川事務所、各県庁の方には河川に関して詳しく解説いただき、各市民団体の方には、川の取り組みについて色々教えていただき、研究面でも大いに参考にすることができた。感謝申し上げます。また今回大阪から和歌山まで駆けつけてくれた岩見崇弘君にも感謝する。



- ・滞在日数:13日間(途中中断抜くと11日間)
- ・ダムカード獲得枚数:1枚
- ・訪ねた河川事務所数:11機関
- ・名刺交換した人:56名
- ・旅をサポートしてくれた人:8名
- ・出会った行政の人:38名
- ・出会った市民団体数:11団体
- ・旅で出会った人:70名

川系男子の 近畿地方「川と人」めぐり



【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りには書を読み川を知ること。

水辺からのメッセージ No.57

岡村幸二 (JRRN 会員)

広いビーチが地域自慢： 世界で2番目に長いマリーナビーチのスカイライン



撮影：2013年12月（インド・チェンナイ）

◆美しい海岸を守るクリーン作戦

チェンナイは1640年にイギリスの東インド会社が、このマリーナビーチのすぐ近くに要塞を築き、マドラス（チェンナイ）の貿易の中心として発展しました。チェンナイのまちを歩くと、道路沿いにはどこもゴミやガレキが散乱しています。「インド人には清潔感覚はないのか」と落胆しましたが、ビーチでは年末に市民総出の大掃除。観光資源を自らの手で清掃する活動を目にしてホッとしました。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第 18 回荒川流域再生シンポジウム「天然遡上のアユで溢れる流域の再生を語る」(3/16 開催)

荒川流域ネットワークでは、2014 年も「天然遡上のアユで溢れる流域の再生を語る」をメインテーマに、「荒川流域再生シンポジウム&みずかけ“サ”論」を開催致します。

今回は、5 年間のアユの標識放流調査と流域一斉水質調査の結果、現在進められている入間川での遡上環境改善事業を報告し、荒川流域でのアユの自然遡上復元への取組みと生息環境改善について語り合います。

- 日時：2014 年 3 月 16 日(日) 13:00 開会/16:40 終了
- 場所：国立女性教育会館(東武東上線嵐山駅徒歩 10 分)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1492.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■川の博物館 1 月企画展『魚(うお)のみち』(1/25 ~2/23) ご案内 ※P3 寄稿記事(1)参照

東京学芸大学吉富研究室より御提供頂いた展示イベント情報です。

- 【開催日】2014 年 1 月 25 日(土)~2 月 23 日(日)
- 【会場】埼玉県立川の博物館(埼玉県大里郡寄居町)
- 【展示概要】

ダムや堰などの川の人工物が、魚など生き物の往来を妨げていることが問題視されています。その解決策のひとつとして「魚道」の設置が各地で試みられています。その役割、実例、問題点について紹介します。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1489.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■書評「河川計画論—潜在自然概念の展開」ご紹介

古賀河川図書館より、「河川書の探求」コーナーの最新書評『河川計画論—潜在自然概念の展開』(玉井信行 編、東京大学出版会、2004)のご案内です。

本書は、「河川生態環境学」を主テーマに 1993 年より 10 年続く 3 部作の集大成に当たり、本年は本書の出版から 10 年。更に 10 年後の川づくりを考える上で貴重な一冊です。

なお、著者の玉井信行先生は JRRN 顧問を、また書評を書かれた白川直樹先生は JRRN 理事として、JRRN 運営にご尽力頂いております。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1498.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■「東京 2020 計画地図」新刊書籍のご案内

JRRN 代表理事・土屋信行がメンバーに属する「東京都市計画研究会」編集の新刊本(2014 年 2 月発売)のご案内です。

「銀座に川がよみがえる」「川・運河を観光船が走りまわる」など、2020 年の東京の川や水辺に関わる話題も豊富に登場しております。

- 編著：東京都市計画研究会
- 出版社：かんき出版
- 出版年月：2014 年 2 月
- 価格：1,470 円
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1501.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2014 年 1 月号) を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、BBC (英国国営放送) などでの最近の洪水リスク管理に関わる報道紹介、英国河川プロジェクト賞創設の案内、また RRC 年次総会の案内などが登場しています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1495.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■川の博物館 1月企画展『魚のみち』 ※P3, P16 参照

○日時：2014年1月25日(土)～2月23日(日)

○主催：埼玉県川の博物館

○場所：埼玉県川の博物館(埼玉)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1850.html>

■水の巡回展「雨といきもの展」in 遠賀川水辺館

○日時：2014年1月25日(土)～2月16日(日)

○主催：国土交通省 遠賀川河川事務所

○場所：遠賀川地域防災施設-遠賀川水辺館(直方)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1867.html>

■第1回清流の国ぎふづくり『自然共生』事例発表会

○日時：2014年2月6日(木) 10:30-15:45

○主催：岐阜県、岐阜県自然共生工法研究会

○場所：岐阜県図書館 多目的ホール(岐阜)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1846.html>

■首都圏東部“いい川”づくり研修会 都市河川の多自然川づくり

○日時：2014年2月7日(金) 10:00～17:00

○主催：NPO法人全国水環境交流会

○場所：国土交通省関東地方整備局 会議室(埼玉)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1840.html>

■パートナーシップによる持続可能な地域づくり-持続可能な開発目標(SDGs)を通してみる世界と日本

○日時：2014年2月19日(水) 14:00-17:00

○主催：環境省 他

○場所：国連大学エリザベス・ローズ国際会議場(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1862.html>

■ダム再生 期待される多彩な機能増強

○日時：2014年2月25日(火) 13:30-

○主催：特定非営利活動法人美し国づくり協会

○場所：文化シヤッター本社2階(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1848.html>

■第11回 RAC フォーラム すべてのことがらは、川がつなげる!!～環境と安全と防災と教育～

○日時：2014年3月1日(土)～2日(日)

○主催：NPO法人川に学ぶ体験活動協議会

○場所：東京海洋大学 越中島キャンパス(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1842.html>

■JRRN 主催・初春の都心の舟めぐり-船上座談会-

○日時：2014年3月4日(火)、3月15日(土)

○主催：JRRN・江戸東京再発見コンソーシアム

○集合場所：日本橋船着場(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1856.html>

■第18回荒川流域再生シンポジウム「天然遡上のアユで溢れる流域の再生を語る」 ※P16 参照

○日時：2014年3月16日(日) 13:00-16:40

○主催：NPO法人 荒川流域ネットワーク

○場所：国立女性教育会館(埼玉)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1864.html>

■2014年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2014年6月5日(木)～6日(金)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1831.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2014.2.24-27(パース/豪州) 35th Hydrology and Water Resources Symposium

- 2014.5.7-8(ロンドン/英国) 15th RRC Annual Network Conferences

- 2014.6.23-27(トロンハイム/ノルウェー) EcoHydraulics 2014

- 2014.6.25-27(ブリスベン/豪州) 5th Int. Symposium on Hydraulic Structures

- 2014.7.21-25(マナウス/ブラジル) 2nd Int. Conference on the Status and Future of the World's Large Rivers

- 2014.9.2-5(カタローニャ/スペイン) Cong. on Industrial and Agricultural Canals

- 2014.9.15-19(キャンベラ/豪州) 17th International Riversymposium

- 2014.9.21-26(リスボン/ポルトガル) IWA World Water Congress & Exhibition

- 2014.9.28-10.2(ハンブルク/ドイツ) 11th International Conference on Hydrosience & Engineering

- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum

※詳しくは ARRN ウェブサイト内の国際会議ページをご参照下さい。→<http://www.a-rr.net/news/conference/>

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

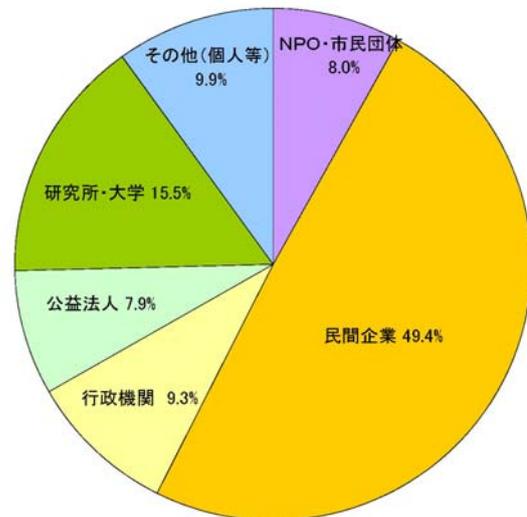
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2014年1月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：642名、団体会員数：52団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
公益財団法人リバーフロント研究所 内
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

